

## 写真人とその本 29 / 白井達男

日本カメラ博物館 JCIH ライブラリー  
学芸員 宮崎真二

白井達男 (1925-1981) は、1945年に横浜工業専門学校航空機科 (後の横浜国立大学工学部) を卒業後、朝日新聞社に入り出版編集局雑誌部で『科学朝日』の編集に携わります。1949年10月に『アサヒカメラ』が復刊すると、翌年1月に同誌編集部へ移り、以降23年間在籍します。

編集部員時代に企画、担当したもので最も大きな実績とされるのが、1957年8月号からスタートし、2020年に休刊するまで通算734回続いた連載「ニューフェース診断室」です。それまでのカメラテスト記事は、有名写真家を使用した感想と作例で構成される経験談的な内容であったものを、写真家、理工系学者・研究者など各分野のエキスパートでグループを構成し、数量的な評価を行うテストシステムを考案しました。また、メーカーからの借用機材ではなく購入品使用を原則とし、分解による機構検討を行ったほか、テスト結果への反論として「メーカーは答える」欄を設けるなど、独自の路線を築きました。



『カメラレビュー』創刊号

1970年12月号から1973年4月号まで同誌編集長をつとめたのち、編集担当役員として朝日ソノラマへ出向し、荒川龍彦『明るい暗箱』(1975年)、北野邦雄『ポケット・カメラの楽しみ方』(同年)、『現代カメラ新書』全99冊(1975-1985年)、『ソノラマ写真選書』全27冊(1977-1980年)、ブライアン・コー『CAMERAS』日本語版(1980年)などの書籍刊行に携わります。

1977年10月には、メカニズムを主体とした季刊誌『カメラレビュー』を創刊しました。同誌は米国の写真雑誌『MODERN PHOTOGRAPHY』と特約してカメラテスト記事を翻訳転載したほか、一眼レフカメラ13機種のモータードライブ作動音を収録したソノシートを付録とするなど、個性的な構成を行って1984年4月の33号まで刊行されました。

同誌はクラシックカメラも重視しており、1978年10月には増刊として『クラシックカメラ専科』を刊行し、不定期で続刊しました。『カメラレビュー』が休刊した後にはこちらが年4回刊行となり、2007年6月の84号まで継続しました。また、1980年4月の「全日本クラシックカメラクラブ」(AJCC)設立にあたって、白井は設立主唱と事務局長をつとめました。『カメラレビュー』11号(1980年5月)には、白井の筆によるとされるAJCCの会員募集広告が掲載されています。



『幻のカメラを追って』

『現代カメラ新書』の1冊として、白井も『幻のカメラを追って』(1982年)を著しています。同書は『カメラレビュー』創刊号から18号(1981年7月)まで15回にわたった連載を白井の没後にまとめたものです。試作機および特殊用途向けや輸出専用品などほとんど知られていない量産モデルをテーマに、関係者から直接カメラ製造にあたっての秘話を聞くなど、今日では得難い貴重な内容となっています。